

粕谷和夫の観察日記。可哀そうなオシドリのおスです。5月14日、八王子・長池公園の池。左側の羽根を何らかの原因で痛めてしまい、飛べなくなって繁殖地へ帰ることができません。このオシドリは4月の野鳥カウント調査時に見かけ、5月になっても頑張っていました。怪我が回復することを祈るばかりです。

紅葉台



新聞

第246号

2026年

8月8日

発行人：関谷 孝

季節の便り ツバメの巣調査(2026年5月)

春になると、南の国から渡って来るツバメ。民家の軒先・車庫、店の軒下や駅の改札口前などに巣を作り、ヒナを育てるツバメの姿を毎年のように見かけます。

長旅をして日本に渡って来たツバメのおスは巣を作れそうな場所に陣取り、電線等に止まり、盛んに鳴いてメスを呼びます。昔の人はおスの鳴き声をそれに似た人の声に置き換えた「聞きなし」で表してきました。それが「土食って・虫食って・泥食って洗—い」です。

ツバメと人の繋がりは古く、古来より水田の稲に付く害虫を食べてくれる益鳥として、また町中でも「ツバメの巣は縁起がよい」とされてきました。しかし近年、ツバメを取り巻く環境が変化し、ツバメが見られなくなったと感じる人が増えています。

ツバメは本当に減少しているのか、私は「カワセミ会」の仲間とツバメの巣のカウント調査をしています。この調査は JR 八王子駅周辺 3km 四方の区域に限定して 2001 年から 5 年おきに実施してきました。今までに 5 回実施し 本年は 6 回目調査を実施中です。

過去 5 回の調査結果は、2001 年 178 巣、2006 年 184 巣、2011 年 131 巣、2016 年 118 巣、2021 年 66 巣で、2021 年の 66 巣は最も多かった **2006 年の 3 分の 1** 程度に減少してしまったことが明らかになりました。

今、2026 年 6 回の調査中ですが、5 年前の 66 巣よりもっと減っているような感じです。ツバメが減少している背景には以下のようなことが挙げられます。一つは身近だった里山の自然が減り、農業の衰退により水田や耕作地が減少し、ツバメのエサとなる虫が少なくなっていることが考えられます。二つは最近の西洋風家屋では軒のないものや、壁面が加工されて巣が作りにくいものが増え、巣を作る環境が減ってしまったことです。「車庫



にフンが落ちて困る」、「玄関が汚れる」とツバメの巣を嫌う人も見受けられますが、一方で添付の写真のような糞対策をする人が増えてくれることを期待しています。

粕谷和夫のブログ 「鳥見歩る記」

<http://kk-kasuya.cocolog-nifty.com/blog/>

粕谷和夫の観察日記



外来種のナガミヒナゲシは繁殖力が強く、アスファルトの多い都会の道路脇でも群れて咲くのでよく目立ちます。一方、こちらはヒナゲシ、虞美人草とも呼ばれます。こちらもヨーロッパ原産で、

江戸時代以降に観賞用に渡来し、それから野生化してい

る「ケシ」ですが、ナガミヒナゲシのように嫌われていないですね。この写真のヒナゲシは 5 月 13 日に秩父横瀬の寺坂棚田、秩父 34 札所巡りの最後、横瀬駅近くの路傍で咲いていました。この花にゴールで出会い疲れが一気に消えた感じになりました。



アジサイの季節には未だちょっと早いですね。この写真はアジサイより半月くらい早く咲く**コアジサイ**です。アジサイよりも小さく、アジサイに特徴的な装飾花がないのが特徴です。日本固有種だそうで、ふわふわとした柔らかな外観、淡い青色の花が何とも魅力的です。雑木林が大好きな種で

5 月 16 日、八王子・宇津木台緑地で野鳥のカウント調査に出会いました。写真を撮っている時、南の国からやってきたキビタキの元気なさえずりが 2 カ所から聞こえてきました。



5 月 19 日、多摩御陵（武蔵陵）の北側にある「長房緑地」を歩きました。この緑地はコナラを主体とする樹林地です。ここで**ネジキ**に出会いました。

この花はツツジの仲間ですが、スズランのような壺形の白い小さな花が整然と並んで下向きにつきます。幹がねじれることから「ネジキ」の名前が付けられたとありますが、実際にはそれほど「ねじれ」は目立ちません。この林でもキビタキのさえずりが聞こえ、小さな池の水面上の枝にはモリアオガエルの卵卵がありました。



1 年が経つのは早いもので、**今年もラッキョウ漬けの季節**になりました。毎年鳥取砂丘のラッキョウを買う店に行くと、今年の鳥取産は売り切れてしまったとのことで鹿児島産を買いました。その八百屋さんの店番のおばあちゃんが 2 人、私に「若いですね」と言われたので 2 人の

年齢を聞くと 91 才と 94 才でした。すごぶる元気、90 才を越えても元気で働いている姿に見習うものを感じました。

オニグルミの未熟果です。5 月 23 日、ジュニアクラ



ブ野鳥観察会（浅川）での一コマ。前月の観察会の時は花だったのが、もうこのような大きな実になって目立ってきました。秋に稔った固いクルミの殻をハシボソガラスが空中から落として割る行動やクルミを自動車に踏ませて割らせるという行動が知られていることをジュニアの仲間に教えました。これに反応したのは子供達より若い父母でした。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。